

憲 法

解答上の注意

1. 問題文は1枚、解答用紙は2枚（各問について1枚）、下書き用紙は1枚です。
2. 解答用紙には、一橋大学の受験番号を記入し、氏名は記入しないでください。
3. 解答用紙は、第1問用と、第2問用とが異なります。それぞれ正しい用紙に解答してください。
4. 解答は横書きにして、1問につき1枚の解答用紙に収めてください。解答用紙の追加、交換はしません。
5. 問題の内容についての質問には、応じません。
6. 貸与した六法に、書き込みをしてはいけません。
7. 試験終了後、問題文と下書き用紙は、持ち帰ってください。

第1問

最高裁判所は、「裁判官に対する政治運動禁止の要請は、一般職の国家公務員に対する政治的行為禁止の要請より強いものというべきである」（最大決平成10年12月1日民集52巻9号1761頁）と述べている。

- 1) 司法権の独立と民主主義の関係、並びに裁判官の政治的表現の自由について論じなさい。
- 2) 1)をふまえ、上の最高裁の見解の当否を検討しなさい。

第2問

AとBは公立の中学校に通う3年生の子どもの両親であった。子どもが通っている中学校で使用されている理科の教科書は、進化論の立場に立つものであり、それは神が生物を創造したとする天地創造論を信じる自分たちの宗派の宗教的信条に反するとして、同中学校の校長に対して自分たちの子どもについては進化論に基づいて行われる理科の授業時間は自習にする措置をとってほしい旨の申入れを行なったが、校長は特別扱いはできないとしてこれを拒否した。この設例に含まれると考えられる憲法上の論点を説明し、校長のとった対応について憲法の観点から論評しなさい。